

## 厚徳寮斷章

寮 隅 住 人

厚徳寮が圓頓寺平賀僧正の扶宗護法の念と、特に厚い教學に對する理解のもとに此處東谷智教房跡に創設されて早くも五星霜。その昔西谷に松木先生の手依つて建設された西溪寮の昔から數へれば、十三年を經過して居る。光陰矢の如きに譬ふれどもなほ夢のやうにしか思へぬのである。本年は創立五週年に際し色々催をしたいと張切つてゐたのであるけれど、時局に勘みて小旅行と記念の葉をこしらへただけで、たと内輪の祝賀に止めて置たことは残念のやうでもあるが、また却て意義の有つたことも考へられるのである。教頭先生を始め前舎監である今村先生、松木先生、中條先生の五週年を祝しての玉章は、身延山に於ける寄宿舎の一大歴史を物語つてなほ餘りある尊いものであつた。たゞに我等は淳良なる寮風の確立を目的に、自肅自戒、以て五週年を意義あらしめむと念願するものである。

○ 自然の莊嚴に眼も魂も奪はれてしまふ紅葉の靈域、耳を訪づれて來るものは法鼓唱題の音のみ、實に寂光を髣

髣させる有難いみ山である。而も其處に安住所を得て日々夜々大聖人の御教を三業に修行することの出来ることは何と云ふ限りない法悦であらう。現在寮生は六十二名福島、林兩先生の膝下に和氣霽々裡に各自の本分に精進して居る。先日、武内觀良、田口榮治の兩君を名譽ある出征軍人として我が寮から出したことは、また厚徳寮に取つてもこの上なき榮譽でなくてはならない。

○ 毎日の生活は、午前五時起床、本山朝勤出仕、其以外の者は六時より内外の清掃を行ひ、七時朝食、八時より午後三時迄は登校學業に就き、夕食五時六時半より自習時間、九時点檢を受けて十時漸く就寢するのである。かうした激しい晝夜常精進の中にも、また楽しいものは新しい知識に遅れ勝ちな我々の唯一の慰めである岡安氏寄贈のラヂオである。其の他閱覽室の各新聞雜誌や、ピンポン、砲丸等の娛樂機關等に寮生はうるほひを求めて將來なすところある宗門人としてのスタートに準備をしつゝあるのである。